

耳鼻咽喉科史料展覽會目錄及解說

九州帝國大學醫學部耳鼻咽喉科學教室附屬久保記念館

<https://hdl.handle.net/2324/7361904>

出版情報 : pp. 1-60, 1927. Kyushu Imperial University
バージョン :
権利関係 :



KYUSHU UNIVERSITY



自昭和二年五月七日
至同年五月十一日

耳鼻咽喉科史料展覽會目錄及解說

九州帝國大學醫學部
耳鼻咽喉科學教室附屬
久保記

念館

九州大学 中央図書館 和



003131999090432

951
3
1

附属図書館 和 邊及

003131999090432

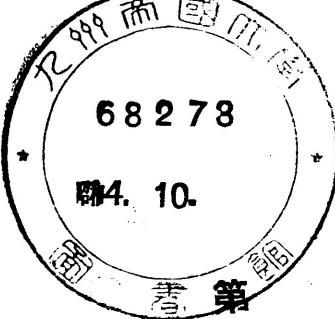


九州大学蔵書

大工原銀太郎 寄贈

耳鼻咽喉科史料展覽會目錄及解説のはじめに

開講貳拾年の記念に、門下の諸君から贈られた記念館の開館式を記念する爲に、耳鼻咽喉科史料展覽會を開くことが出来たのは自分の満足する所である。大工原總長をはじめ、各學部の同僚諸君、醫學部の教室諸君、學生諸君、學外有識の諸君、耳鼻科地方會の諸君その外に觀て頂く機會を得たことを欣幸とする。此種の展覽會は西洋では屢企てられる所であるが日本では其事を聞かないやうである。展覽會を開くに就いては教室諸君の活動はいふ迄も無く、のぞき箱を貸して下さった大學圖書館、福岡縣立圖書館、博物館の方々に厚く御禮を申して置く。又貴重な標本を出品して展覽會を助けて下さった、病理學教室の中山、田原兩教授、長圖書館長、小倉の曾田共助君等に別して謝意を表する。



明治 10.

書

第二部 教室以外の標本類

第二部 遺品

第一部 専門家ノ肖像類及ビ遺品

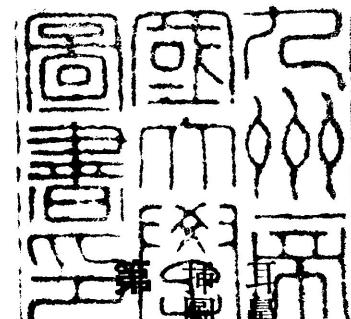
第一部 肖像類

洋書追加

二九一三八

二八

四一四九



第一部

圖書及圖譜類

頁

耳鼻咽喉科史料展覽會目錄及解說
二葉

目 次

耳鼻咽喉科史料展覽會目錄及解說のはじめに

第一部 洋書

一一一〇

第二部 和漢古醫書

一一一七

洋書追加

二八

昭和二年五月十七日 福岡にて 久保猪之吉

唯展覽會を開いたといふ丈では線香花火のやうに一時的のものであるから、各出品の名稱及解説を印刷に附して當日御來觀の榮をえた諸君に頒布し、かつ専門家の間にも御分けしやうといふ事になつた。印刷といふ事になると、誤を正し缺を補ふといふ必要が起り中々手がかかる。しかしやりかけた事であるから、不完全ではあるが何か後々の参考となり、再び繰り開いて見られる丈のものにしておきたいと思ひ、田中一君に手傳つて貰つて作りあげたのが此小冊子である。尙解説の製作につきては立木、貝田、山中、高崎、末松、戈等諸君の勞を多とする。又福岡印刷會社の諸君が、校正、改竄の頻繁なるに不平なく、此印刷を爲し遂げられたことを感謝する。

不備不満の所が多いけれども、諸君の寛大なる御批判を仰ぐ。

第四部 機械類

第一 主トシテ教室ニテ考案シタルモノ

五一五四

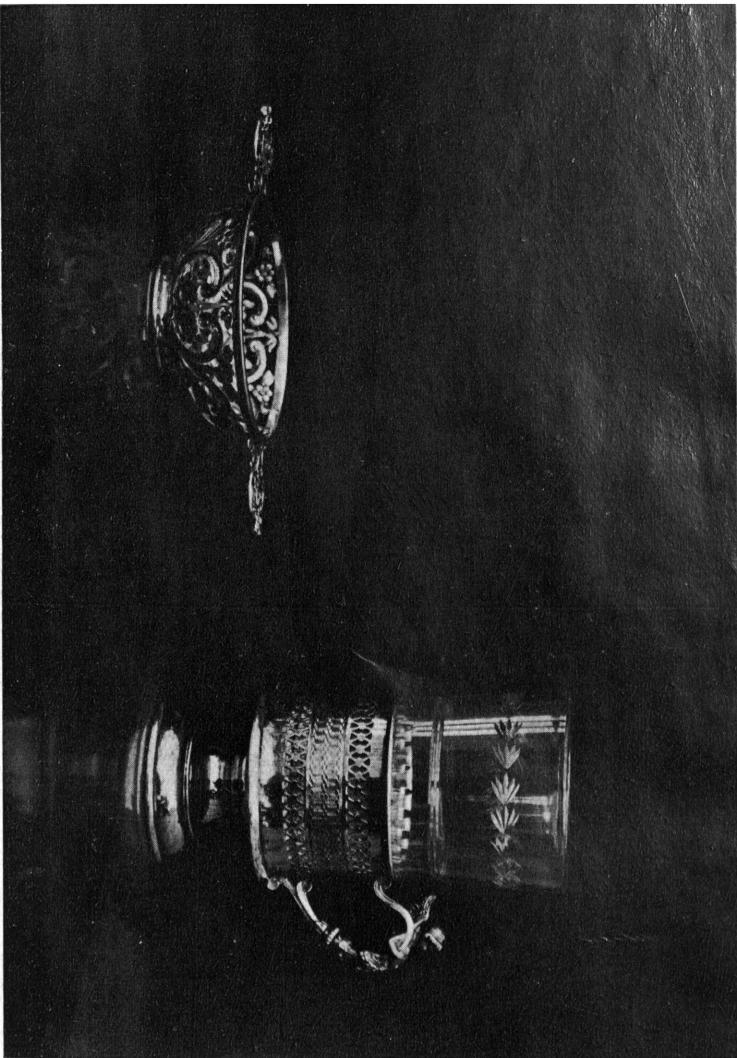
第二 外國製品ノ革新ナルモノ

五四一五五

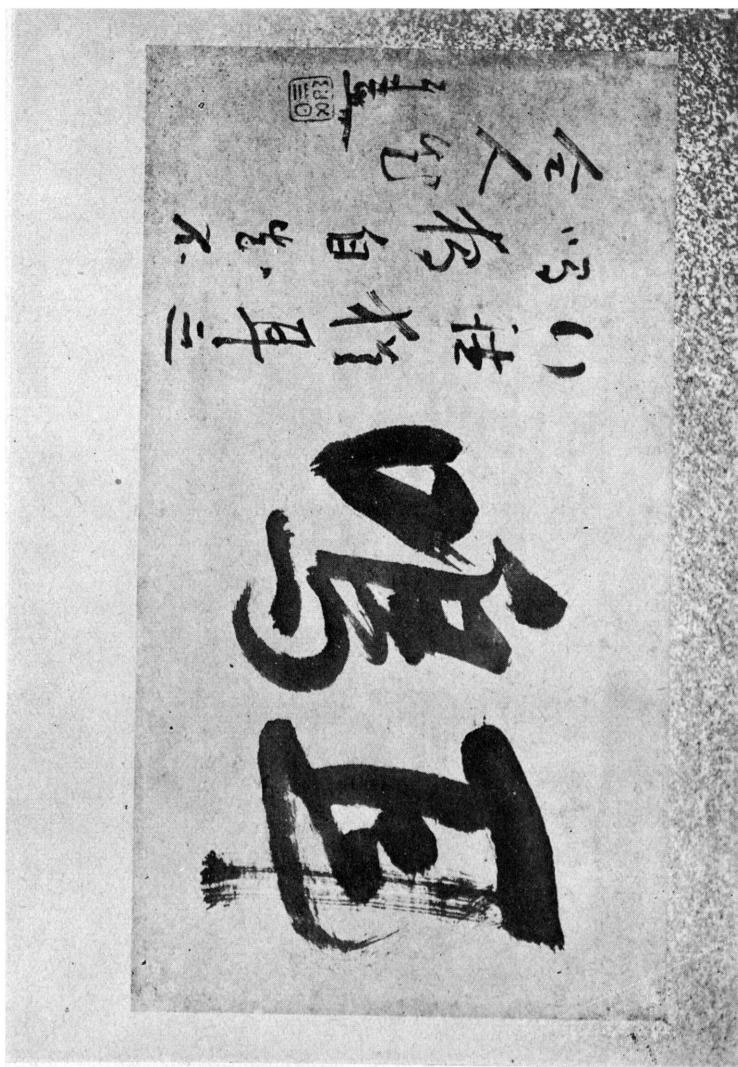
第五部 雜

五六一六〇

以上



(リニア文本説解) 聰耳筆崖仙



耳鼻咽喉科史料展覽會目錄及解說

九州帝國大學醫學部耳鼻咽喉科教室附屬久保記念館
ニ於テ昭和二年五月七日ヨリ十一日ニ至ル間開會

第一部 圖書及圖譜類

第一 洋書

本欄ニハ耳鼻咽喉科ノ歴史ニ關スルモノ、喉頭鏡發明（一八五五年）以前ノ出版ニ係ルモノ、耳鼻咽喉科ノ基礎的記載及ビ圖畫類ヲ收メタリ。配列ハツトメテ年代順トナシタルモ時ニ前後シタリ

本館ニ展覽シタル圖書類ノ多クハ教室及久保ノ所藏ニカカル、外國人ノ姓名ニハ歐字ヲ挿入シタレドモ書名其他ハ煩シキヲ以テ省キツ

- 一 ガブリエロ、ファロッブ氏 Fallopi, G.
水劑、イタリア、ヴェニス、一五六四年、
著者ハ一五二三年ニ生レ一五六二年ニ死ス。
- 二 ヒエロニムス、ファブリチユース氏 Fabricius, H.
解剖及ビ外科書
フランクフルト、一六一四年、
著者ハイタリア、サバドアノ人、一五三七年ニ生レ一六一九年ニ死ス。
- 三 ウイルリス氏 Willis, Th.
醫學書、一六七六年（延寶四年、靈元天皇、將軍家綱）
著者ハ所謂 Paracelsus Willisi（ウイルリス氏錯聽）ノ現象ヲ發見シタル人ナリ。
- 四 オイスタキオ、バルトロメオ氏 Eustachio Bartholomeo
解剖圖譜（Explicatio Tabularum anatomicarum）新版、西曆一七七四年（今ヨリ約一五三年前）、ライデン（Leidae Batavorum）ウ出版、
著者。（西曆一五二〇—一五七四）伊太利ノ有名ナル解剖學者ニシテ、耳鼻科領域ニ於テ「歐氏管」ノ名稱ニ依リ昔ク知ラレタル歐氏ハ即チ此ノ人ナリ。
- 本書ノ內容。二冊ヨリ成ル。上卷ハ主トシテ圖譜ノ説明、下卷ハ全卷悉ク精巧ナル解剖圖ノミヲ收ム。
展覽ノ個所。人ノ喉頭ノ解剖的所見ヲ示ス。
- 五 エツコルト氏 Eckoldt, Joh. G.
食道及氣道異物摘出ニツイテ ライプチツヒ 一七九九年
著者ハライプチツヒノ外科教授ニシテ異物摘出ニ關スル種々ノ器械ヲ考案圖説セリ、當時ハ直達検査法發達セザリシテ以テ種々ノ器械ニテ異物ヲ盲目的ニ摘出スルカ切開シテ取出シタルナリ。
- 六 アントン、スカルバ氏 Scarpa, A.
聽器及嗅器ノ解剖的検査、ニコルンベルヒ 一八〇〇年、
本書ハ羅典語ヨリ翻譯シタルモノニシテ卷末ニ多數ノ大イナル銅版ヲ附ス。圖ハ各種動物ノ聽器及嗅器ヲ附ス。
- 七 サムエル、トーマス、ゼンメリング氏 Soemerring, S. Th.
人ノ聽器ノ圖譜、フランクフルト、アム、マイン 一八〇六年
- 八 サムエル、トーマス、ゼンメリング氏 Soemerring, S. Th.
人ノ味覺及發聲器ノ圖譜 フランクフルト、アム、マイン、一八〇六年
- 九 ゼンメリング氏 Soemerring, S. Th.
人類嗅器ノ圖譜 フランクフルト、アム、マイン、一八〇九年
- 一〇 カール、アウグスト、ワインホルド氏 Weinhold, C. A.
ハイモルス竇ノ變化ニ就テ ライプチツヒ、一八一〇年
本書ハ一八一〇年著者ガプロシヤ王フリードリッヒ、ウイルヘルム第三世ニ奉呈シタルモノナリ。上頸竇ニ關スル古キ

記載ノ一ナリ。

一 カール、アウグスト、ワインホルド氏 Weinhold, C. A.

顔面骨トソノ粘膜ノ疾患ニ就テ、ハルレ、一八一八年
巨大ナル鼻茸ヲ左ノ上顎ヨリ取りタル例アリ。

二 トランペル氏 Trampel, J. E.

聽器ノ治療法 ハノーベル、一八二二年 第二版

本書ハ耳疾患ノ治療ヲ述べタルモノニシテ銅版二圖ヲ附ス、第二版ハメンケ氏ノ注意及序文アリ。

三 ルニ氏 Roux, Ph. Jos.

軟口蓋縫合術 ベルリン、ランズベルク 一八二六年

本書ハ耳疾患ノ治療ヲ述べタルモノニシテ銅版二圖ヲ附ス、第二版ハメンケ氏ノ注意及序文アリ。

四 カール、ヨセフ、バツク氏 Beck, K. Jos.

聽器疾患 ハイデルベルヒ及ライブチツヒ、一八二七年

本書ハ講義ニ用キタル講本ナリ。一五九一年ヨリ一八二五年ニ至ル文籍ヲアゲタリ。

五 アルベルス氏 Albers, Fr. Joh. H.

喉頭疾患ノ病理及療法 ライブチツヒ 一八二九年

喉頭疾患ノ病理及療法

本書ハ喉頭鏡發明以前ノ書ニシテ書中第一編ニ於テ喉頭ノ過敏性、痙攣、異物、癱痺、クルツブ、ボリーブ等ニツキテ記述シタリ。第二編ニオイテハ喉頭ノ潰瘍化膿、火傷、梅毒、結核、化骨等ニ就キテ記述ス、且一八二八年迄ニ至ル喉頭疾患ノ文籍ヲアゲタリ。

六 セシイ氏 Saisse, J. A.

内耳ノ疾患ニ就テ、ゲツチングン 一八二九年

本書ハウエストルムブ氏ノ獨譯シタルモノニシテ原書ハ佛語ニテ書カレボルドー醫學會ヨリ推奨セラレタルモノナリ。鼓膜ノ疾患、鼓室ノ疾患、歐氏管ノ疾患、迷路ノ疾患、聽神經ノ疾患ニツイテ記載シタリ。

七 ブランシェ氏 Blanchet, A.

聾啞、パリス 一八三〇年

本書ニハ手話法ノ圖ヲ收メタリ、卷頭ニ著者ノ獻本ノ自筆アリ

八 ローベタール氏 Lobethal,

耳疾患、ベルリン 一八三三年

本書ハ羅典語ニテ記載セラレ卷頭ニ耳疾患ニ關スル文籍ノ一五九〇年以後一八二七年ニ到ルマデヲ多數ニ舉ゲタリ。圖ナシ。

九 クラーメル氏 Kramer, W.

耳疾患ノ診斷及療法、ベルリン 一八三六年

慢性難聽ト稱スル第一版ヲ増補シタルモノニシテ第二版ニ當ル。銅版圖ヲ卷末ニ附シタリ。ソノ中ニ歐氏管「カテーテル」及ビクラーメルノ鼻鏡ヲ載セタリ。

一一〇 ブレッスレル氏 Bressler, H.

鼻腔、口腔、歯牙及ビ顔面ノ疾患（頭部及ビ五官器ノ疾患、第三卷）ベルリン、一八四〇年

一一一 ピルチャー氏 Pilcher, G.

聽器ノ解剖、生理及ビ疾患 フィラデルフィヤ 一八四三年

本書ニハ聽器ノ解剖、歐氏管「カテーテル」、鼻鏡等ノ圖アリ。

一一二 ヨセフ、ヒルトル氏 Hyrtl, J.

人類及ビ哺乳動物ノ内聽器ノ比較解剖的研究 ブラーグ、一八四五年

一一三 ピオリ一氏 Flory, P. A.

氣道疾患ニ就テ ライブチツヒ 一八四四年

本書ハピオリ一氏ノ佛文原書ヲクルツブ氏ノ獨譯シタルモノナリ。書中鼻疾患、咽頭、口腔疾患、喉頭疾患等ニ就テ述ベタリ。

一一四 ベックルン氏 Beckern, D.

プロシヤノ刀飲ミノ話 リーデニツツ 一八四五年

一六四三年一月一日ノ患者ノ肖像及實物大ノ刀ノ圖アリ。

一一五 カスバル、テオバルド、トワルトウアール氏 Tourtoul, C. Th.
人間ノ咽頭、喉頭構造ニ關スル新研究 ライブチツヒ 一八四六年

一一六 アントン、ヌーン氏 Nuhn, A.
外科學的、解剖學的圖譜、第一部頭部及頸部 ハイデルベルヒ 一八四六年

自然大ノ着色圖版及ソノ説明ヲ附ス。

一一七 サッペー氏 Sappey, Ph. C.

鳥類ノ呼吸器ニ關スル研究 パリス 一八四七年

著者ハパリーノ有名ナル解剖學者ニシテ本書ハ鳥類ノ肺、橫隔膜、氣道等ニツキテ記載シ附圖アリ。

一一八 チエルマツク氏 Czernak, Joh. Neo.

全集 第二、ライブチツヒ 一八七九年

二卷三冊ヨリ成ル、本書ハ第一卷第二部ニシテ喉頭鏡ニ關スル歴史ヲ記ス、展覽ノ圖（第九圖）ハ喉頭鏡検査法ノ處ナリ。

一一九 エールマン氏 Ehrmann, G. H.

喉頭「ボリーブ」ノ歴史 ストラスブルグ 一八五〇年

本書ハストラスブルグ醫科大學ノ解剖學教室博物館ヨリ出版シタルモノニシテ、喉頭内ノ腫瘍各種ヲ精細ニ圖說シタリ

一一〇 ハアヴェー氏 Harvey, W.

扁桃腺肥大ノ切除ニ就テ ロンドン 一八五〇年

本書ハ口蓋扁桃腺ノ解剖、病理等ニ就テ記載シ扁桃腺肥大ト聲トノ關係ヲ述べ扁桃腺ノ除去ニヨリテ聲ヲ治スル、扁桃腺ト生殖器並ニ腺様臟器トノ關係ヲ述べソノ外扁桃腺ノ各種疾患ニツイテ記載シタリ。

三一 イーヤースレイ氏 Yearsley, J.

聲 ヴィマール 一八五一年

イーヤースレイ氏ノ耳ノ疾患ノ症狀病因及ビ療法ニツイテソノ實驗ヲ記述シタル英書ヲウルマン氏ノ獨譯シタルモノナリ。イ氏ハ當時既ニ歐氏管ノ消息法及ビ通氣法ヲ「カテーテル」挿入ニヨリテ行ヒヲレリ、其圖、書中第五圖ニアリ。

三二 テオドル・ビルロート氏 Billroth, Th.

粘性鼻茸ノ構造ニ就テ ヴィルリン 一八五五年

著者ハウキン大學生有名ナル外科醫ニシテ本書ハ鼻茸、上顎及前額竇「ボリープ」喉頭及氣管ノ「ボリープ」耳茸ソノ他ノ粘性茸ニ就キテ記載シ腫瘍學上粘性茸ノ位置ヲ定メタルモノナリ。

三三 ワイルド氏 Wilde, W. R.

實用耳科學、耳疾患ノ症狀及ソノ療法、グッチングン 一八五五年

ワイルド氏ハ英醫ニシテ急性乳嘴突起炎ニ於テ所謂ワイルド氏切開法ヲ始メタル人ナリ。本書ハワ氏ノ一八五三年ノ英書ヲハーゼルベルク氏ノ獨譯シタルモノナリ。

三四 ツェルマツク氏 Czermak, Joh. N.

ツェルマツク氏 Czermak, Joh. N.

三五 ルードウイッヒ チュルク Türk, L.

喉頭鏡ト生理及醫學ニ對スルソノ應用、ライプチッヒ 一八六〇年

著者ハウイーン一般病院ノ醫長ニシテ早ク喉頭鏡ヲ臨床的ニ應用シツェルマツクト競争的ニ喉頭鏡検査ヲ發達セシメタル人ナリ、ツェルマツク氏ハ氏ノ喉頭鏡ヲ借りテ始メテ喉頭鏡検査ヲ行ヒタリト云ハル。本書ハ初版ニシテツェルマツク氏ノ喉頭鏡ト相對シテ喉頭科學歷史上重要ナル本ナリ。

三六 ツェルマツク氏 Czermak, Joh. N.

喉頭鏡ト生理及醫學ニ對スルソノ應用 ライプチッヒ 一八六三年

本書ハ第二版ニシテ喉頭鏡下ノ處置法ヲモアゲタリ。喉頭鏡像ハ第一版ヨリモ精密トナリタリ。第七圖ハ著者自ラ「己」ノ喉頭ヲ鏡ヲ以テ検査シタル圖ナリ。

三七 ブルンス氏 Bruns, V.

喉頭ボリープノ最初ノ摘出 チュービングン 一八六二年

著者ハチュービングン大學外科學教授ニシテソノ令弟(當時ベルリン圖書館司書)ノ喉頭ボリープヲ喉頭切開ニ依ラズ喉

頭鏡検査ノ下ニ喉頭内ヨリ摘出シタリ、之實ニ一八六一年七月二十日ノ事ナリ、是喉頭内手術法ノ濫觴ナリ。本書ハ此第一例ノ記載ニシテ手術器械及喉頭像ニツイテ詳シク記載シタリ。

二八 ヨセフ、トインビー氏 Toyinbee, Jos.

聽器疾患、ウユルツブルヒ 一八六三年

著者ハ英國耳科學ノ初期ニ於テ最モ著名ナル専門家ノ一員ナリ。本書ハ英語ノ原著ヲモース(ハイデルベルヒ大學講師)氏が獨譯シタルモノナリ。展覽ノ圖ハ歐氏管カテー・テル及呼氣ヲ以テ通氣ヲ行フ處ヲ示ス(二〇〇—二〇一頁)

二九 チームゼン氏 Ziemsen, H.

咽頭、鼻、喉頭鏡検査ノ梗概 エルランゲン 一八六五年

本書ハ技術、喉頭鏡検査法及腫瘍ニ就キテ記載シタリ。

四〇 シュミット(ゲオルグ)氏 Schmidt, G.

動物ニ於ケル喉頭検査法 チュービング 一八七三年

本書ハ猫ニ就テ喉頭ノ實驗的生理的研究ヲ記載シタルモノナリ。卷末ニ猫ノ喉頭解剖圖及ビ神經切斷時ニオケル各種喉頭圖ヲアゲタリ。

四一 ルーツエー氏 Lucae, A.

鼓膜後皺襞切開ノ新例 ベルリン 一八七二年

一八七一年十二月十三日ベルリン醫學會ニテ發表シタルモノナリ、此手術法ノ歴史ヲ附ケ加ヘタリ。

四二 ヴィクトール、フオン、ブルンス氏 V. Bruns, V.

喉科學及喉頭外科學ニ關スル圖譜 チュービング 一八七三年

本書ハブルンス氏ノ實驗ニ係ル喉頭「ボリープ」、「バビローム」、各種腫瘍ノ喉頭鏡像ヲ一部着色圖ニテ記載シタルモノナリ。

四三 ストルツエンブルグ氏 Stolzenburg, W.

氣管切開ノ歴史、卒業論文 ベルリン 一八八三年

四四 レチュース氏 Retzius, G.

脊椎動物ノ聽器、二卷 ストックフォルム 第一卷、一八八一年 第二卷、一八八四年

著者ハストックホルムノ解剖學者ナリ、第一卷ニ於テ魚類及兩棲類ノ聽器、第二卷爬虫類鳥類及哺乳動物ノ聽器ヲ記載ス。生體固定ヲ標本製作ニ適用スル以前ニオケル聽器解剖學ノ基礎ヲナスモノナリ

四五 ハック氏 Hack, W.

鼻疾患ノ根治的療法、ウイースバーデン、ベルグマン出版 一八八四年、

本書ハ喘息、枯草熱、偏頭痛等ヲ鼻科的手術ニヨリテ治シタルモノヲ記載シタルモノニシテ、ハック氏ハ鼻性反射神經症ヲ夙ク唱導シタル人ナリ。氏ハキリアン氏ノ前任者トシテフライブルヒ大學ニアリキ

四六 トラウトマン氏 Trautmann, F.

咽頭扁桃腺肥大 ベルリン 一八八六年

本書ハ喉頭扁桃腺肥大ノ解剖、病理、臨床上ノ研究並ニ外科的手術法ト聽器疾患ノ豫防法ニツイテ記載シタリ。

四七 ドレッセル氏 Dressel, C.

舌下囊膿孔ノ歴史ノ追加 卒業論文 ヒルドルグハウゼン 一八八八年

四八 シュルレル氏 Schüller, M.

氣管切開法喉頭切開法及ビ喉頭全摘出法 ストウツトガルト 一八八〇年

本書ハ「ドイツチ^エ、ヒルルギー」ノ第三十七分冊ニ當リ書中氣管切開、喉頭切開及ビ喉頭全摘出ニ關スル歴史ヲ記載セリ。

四九 ビュルクネル氏 Burkner, K.

鼓膜ノ圖譜 ヨーナ 一八八六年

此種ノ著書ノ最モ古キモノナリ

五〇 キリヤー氏 Kilian, G.

後部喉頭壁ノ検査 ヨーナ 一八九〇年

著者ハ從來喉頭鏡下ニ見逃サレタル喉頭後壁ヲ頭部前屈方法ニヨリ検査シウルコトヲ發見シタリ。

五一 フリードリッヒ、ジーベンマン氏 Siebenmann, F.

人類聽器骨迷路ノ腐蝕解剖學 ウィースバーデン、一八九〇年

本書ハ聽器ノ軟部ヲ腐蝕シ、其骨腔ニウッド氏合金ヲ注入シ、更ニ石灰質ヲ脫灰溶解セシメ金屬鑄型ニヨリテ聽器ノ迷

路内形狀、血管ノ走行、導管ノ位置等ヲ明瞭ニスル方法ヲ述べ、聽器研究上ニ一知見ヲ加ヘタルモノナリ。

五一 マイヤー氏 Meyer, W.

耳科學ノ歴史 ライブチツヒ 一八九三年

「アデノイデ」ヲ初メテ記載シタルデンマルク國コペンハーゲンノウイルヘルム、マイエル氏ノ執筆シタルモノニシテシユワルツェ氏耳科學全書ノ卷末ニアリ（八五八・九〇四）

五三 シユミツト（フェルデナント）氏 Schmidt, F.

喉頭厚皮症ノ臨床的歴史 卒業論文 ベルリン 一八九四年

五四 ツワルデマーケル氏 Zwaardemaker, H.

嗅覺ノ生理 ライブチツヒ 一八九五年

著者ハ和蘭ウトレスヒト大學生理學教授ニシテ嗅素ヲ九種類ニ分類シタリ。ウ氏ノ嗅覺計ハ嗅覺生理ニ於テ最モ必要ナルモノナリ。

五五 キルシュタイン氏 Kirstein, A.

直達検査法 ベルリン版 一八九六年

本書ハ喉頭ノ直達検査ヲ舌壓子ニヨリテ始メテ行ヒタル記述ニシテ、キリヤー氏ノ氣管枝鏡検査法ノ基ヲナシタルモノナリ。キルシュタイン氏ハコノ方法ヲ「アウトスコッピ」（Autoskopie）ト名附ケタリ。

五六 バルデワイン氏 Baldewein, R.

ヒボクラテスノ鼻科學、卒業論文 ウイスバーデン 一八九六年

五七 ヘルマン、フォン、ヘルムホルツ氏 v. Helmholtz, H.

音感覺論 ブラウンシユワイグ、一八九六年

本書ハヘルムホルツ氏ノ所謂迷路ノ共鳴學說ノ基礎ヲナス著書ニシテ、八年間ノ研究結果ヲ發表シタルモノナリ。本研究ヲナスニ要シタル器械製作費用等ニ就キ、バーリヤ皇帝マキシミリアン陛下ノ補助ヲ受ケタリ。本書ヲミュンヘンニ於テベツオルド教授ニ示シタル時、教授ハ余ノ爲ニ左ノ文字ヲ記シタリ。

「ベツオルド教授ハヘルムホルツノ定説ニ證明ヲ追加シタルヲ以テ今此ノ書ノ同僚久保教授ノ手ニ入りタルヲ喜ビテ以テ見ル」ト。

五八 フーコー、シモン氏 Simon, H.

ヒボクラテスノ喉科學、學位論文 ベルリン、一八九七年

五九 リチアルド、ゴールドバツハ氏 Goldbach, R.

ガレヌスノ喉科學、學位論文 ベルリン、一八九八年

六〇 ハイマン氏及クローネンベルヒ氏 Heymann, P. und Kronenberg, F.

喉頭科學及鼻科學ノ歴史 ウイーン 一八九八年

本編ハハイマン氏鼻喉科學全書ノ第一卷一一五四頁ニ記載シタルモノナリ。

六一 ルドルフ、クスマウル氏 Kussmaul, R.

老醫師ノ懷古錄 ストゥットガルト、一八九九年

本書ハ食道鏡検査法ヲ發明シタルクスマウル氏ノ自叙傳ニシテ、一八四九年ニ至ル記載アリ。

六二 ヴュルネー氏 Verney, Du.

聽器 和蘭ライデン 一七三〇年

聽器ノ解剖ニ就イテ圖ヲ附シテ説明シタリ、全部羅典語ナリ。

六三 ウルマン氏 Ullmann, O.

ガレンノ鼻科學、卒業論文 ベルリン 一九〇〇年

六四 アイケン氏 von Eicken, C.

氣道及食道上部ノ直達検査法ノ臨床的應用 ベルリン 一九〇四年

著者ノ講師就任論文ニシテ直達検査發達ニ關スル歴史及フライブルヒ大學キリアン臨床ニ於ケル實驗例ヲ記載シタルモノナリ。

六五 スタルク氏 Starck, H.

食道鏡検査法 ヴュルツブルグ 一九〇五年 第一版

本書ニハ食道鏡検査法ノ發達ニツイテ極メテ詳シ歴史的記載アリ且ツ食道直達検査ニ用キタル各種ノ器械ヲ圖説シタリ。

六六 ゴールドマン及ビキリヤン氏 Goldmann, E. und Killian, G.

ゴーレードマン及ビキリヤンノX光線ヲ用キテ副鼻腔及ビソノ疾患ヲ診定スル法(クリニツシエ、ヒル、ギーノ別刷)

チユービングン 一九〇六年

フライブルヒ郊外ノ「ティヤコーニツセンハウス」ノゴーレードマン氏外科臨床X光線室ニキリヤン氏教室ヨリ患者ヲ運搬シ種々試験ノ結果始メテ後頭前額方向ニ放射シタル副鼻腔ノX光線像ヲ得ルニ成功シタリ。前額竇ニ消息子ヲ入レテ寫シタル像モアリ。

六七 シュレツテル氏 von Schröter, H.

エーナ 一九〇六年

著者ハウイーン大學教授故レオポルド、フォン、シュレツテル氏ノ令息ニシテ本書ハ氣管支鏡検査ニ關スル歴史ヨリ技術及實驗例ニ關シ極メテ詳細ナル記述ヲナシタルモノニシテ此種ノ著書ノ最モ大イナルモノナリ。

六八 久保猪之吉氏 Kubo, I.

日本ニ於ケル古代耳科學 (M.f.O. Berlin, 1906 S. 604—613) 一九〇六年

六九 久保猪之吉氏 Kubo, I.

日本ニ於ケル古代鼻科學ノ歴史ニ就テ (A.f.L. Berlin, 1907, S.145—153) 福岡、一九〇七年

七〇 ムーレ氏 Moure, E. J.

萬國耳鼻咽喉家肖像集 ボルドー 一九〇八年

本書ハルビューエフドマデール雜誌社ニテ發行セルモノニカカリ獨、米、ハンガリー、ベルギー、デンマルク、スペイ

ン、佛、蘭、伊、日、ノルウェー、波、露、土、スイス各國ノ著名ノ専門家ノ肖像略歴ヲ收メタリ。

七一 ブルンス氏 von Bruns, V.

チユービングン 一九〇八年

著者ハ喉頭内手術ヲ初メタルフオン、ブルンス氏ノ令息ニシテガルシヤ氏ノ喉頭鏡發明ノ日即一八五五年三月二十二日

ヲ以テ喉頭鏡検査法即喉頭科學ノ誕生日ナリトナシ五十年祭ヲ行ヒタル一九〇五年ニ至ルマデノ發達ノ梗概ヲ記シタリ

七二 サア、フェリツクス、ゼモン氏 Semon, F.

一八八〇年ヨリ一九一〇年ニ至ル研究及實驗 二卷 ベルリン 一九一二年

第二卷第十章ニ日本學界訪問記及ビ懷古漫錄アリ。其中ニ奈良ノ佛像ト希臘ノ彫刻物トノ類似點ヲ指摘シタル所アリ。

七三 キリヤン氏 Kilian, G.

一九一一、一九一二年ニ於ケル直達検査法 ベルリン 一九一二年

七四 ポリツツエル氏 Politzer, A.

耳科學歴史全書二卷 一九〇七年—一九一三年

本書ハポリツツエル氏ガ多年ニ亘リテ調査蒐集シタル材料ヲ基礎トシテ編纂シタル極メテ精密浩瀚ナル著述ナリ。第一

卷ハ東洋、希臘、羅馬ノ古代ヨリ中世紀ノ耳科學、近代移行期ノ耳科學、十七世紀ノ耳科學、近世期ノ耳科學、十九世紀初半ノ耳科學ヲ第一卷トシ一八五〇年以後ニ於ケル耳科學ヨリ現代ニ至ルマデヲ第二卷ニ收メ文明各國ニ類別シ記載シタリ。日本ノ部ハ久保執筆セリ。

七五 ショボー氏 Chauveau, C.

一八〇〇年ヨリ一八七五年ニ至ル咽頭疾患ノ歴史 パリス 一卷—五卷 (一九〇一年—一九〇六年)

本書ハ希臘、羅馬及ビザンチン時代及ビアラビヤ時代ニ筆ヲ起シ既ニ第五卷ヲ出版シ最後ハ一八七五年ニ至ルマデノ咽頭疾患ニ關スル歴史ヲ詳述シタルモノナリ。

七六 カール、カツセル氏 Kassel, K.

原始時代ヨリ第十八世紀ニ至ル鼻科學ノ歴史 第一卷 ヴュルツベルグ 一九一四年

七七 ブライヤー氏 Preyer, W.

小兒ノ精神 ライブチツヒ 一九二三年

著者ハ所謂ブライヤー氏反應ト稱シテ音響刺戟ニヨリ耳翼ノ反射運動ヲナス事ヲ發見セル人ニシテ本書ハ兒童ノ其生後ヨリ精神的發育狀態ヲ記述シタルモノナリ。茲ニ展覽シタルハ第九版ニシテ、カール、シューフェル氏ガブライヤー氏死後補訂ニカ、ル。

七八 カール、ヒルシュ氏 Hirsch, K.

造鼻手術ノ歴史的發達 ハルレ、一九一六年

七九 ルヴエルション及ウォルムス氏 Reverchon, L. et Worms, G.

耳鼻咽喉科ニ於ケルX光線寫眞術、 パリス、一九二三年、

卷頭ニコノ題目ニ關スル歴史的記載アリ。

八〇 カーリン氏 Karlin, M. M.

聽器構造ニ關スル知見ノ歴史的發達 ケーニツヒスベルグ大學解剖學教室、卒業論文

八一 フリース氏 Fries, W.

鼻ノ遠隔作用、(第三版) ライブチツヒ及ウイーン、フランツ、ドイチツケ出版 一九二六年

著者ハ鼻腔粘膜ト婦人生殖器トノ關係ヲ注目シタル人ニシテ、鼻粘膜ニフリース氏ノ生殖器部ヲ命名シタル人ニシテ本書ハソノ記載ナリ。

八二 バラニー氏 Barany, R.

三半規管ノ生理及病理 ライブチツヒ及ウイーン 一九〇七年

著者ハボリツツエル門下ニアリテ三半規管ノ生、病理ニ注目シ冷水ヲ以テ耳洗スル時眩暈及眼震ヲ起スハ三半規管内ノ淋巴ノ流動ニヨル事ヲ唱導シタリ。後、指示検査法ヲ考案シタリ。

八三 ワルテル、ロバート氏 Robert, W.

坑夫ノ眼球震盪ニ關スル歴史ト新説トノ批評 ロストツク 一九一九年

八四 キリヤン氏 Killian, G.

懸垂喉頭鏡検査トソノ實用、ベルリン及ウキーン 一九一〇年、

本書ハ直達検査法ノ一法ニシテ兩手ヲ自由ニ離シテ喉頭ヲ直達處置シウルモノナリ。日本ニハ大正三年久保教授歸朝ノ際始メテ器械ト共ニ此方法ヲ輸入シタリ。

八五 フォン、アイケン氏 v. Eicken, C.

上氣道及食道ノ直達歴史、ギーセン

一九二一年

八六 フアブリチユース、ヒエロニムス氏 Fabricius, H.

人體解剖生理書 (*Opera omnia anatomica et physiologica*)

最新版、西暦一七三八年

和蘭ライデン (Lugduni

Baup run.) ニテ出版。

著者。(西暦一五三七—一六一九年)、伊太利ノ解剖學者

内容。一卷四百五十二頁ノ大冊、人ノ胎兒發生ヲ動物ノ胎生狀態ト比較セル圖譜ヲ始メ、人體ノ精緻ナル解剖圖數十葉

ヲ收メ解説又詳細ナル解剖生理書ナリ。

展覽ノ個所。人ノ耳ノ解剖圖。

第二 和漢古醫書

八七 丹波康賴撰、

醫心方、三十卷、天元五年、壬午(西暦九八二年)

卷之第五、治耳聾方、治耳鳴方、治耳卒痛方、治停耳方、治耳耵聺法、治耳有生異物方等アリ。

本書ハ今日ニ存スル本邦古醫書中ノ最モ古キモノナリ

八八 土佐光長筆 寂蓮法師詞書

病の草紙 鎌倉時代

本卷物ハ疾病圖譜ノ最モ古キモノニシテ、耳鼻科ニ關係シタル疾患ニハコ、ニ展覽シタル鼻ノ先ノ黒キ一家族、眼球震盪症ノ如キモノアリ。此書ニ奇疾草紙トモ云フ。

八九 林億著 備急千金要方 宋朝

卷之十六ニ鼻病第二

治鼻塞腦冷清涕出二方

通草 辛夷各半 細辛 甘遂一ノ作二

桂心 茄菊 附子各一

右七味爲末蜜丸綿裏內鼻中密封云々

九〇 戴曼公著 痘瘡唇舌口訣 卷之上

防州 池田正直筆記 三世孫 成美撰次

本書ハ痘瘡ニ於ケル唇舌ノ變化ヲ記載シタルモノナリ。戴曼公ハ承應二年（一六五三）來朝シタル人ニテ痘瘡ノ事ニ詳シ。

九一 有林 福田方 北朝貞治年間（一三六二—一三六七年）

寫本

耳病、鼻病、舌口齒、咽喉アリ。

九二 載曼公唇舌圖附寫本

本書ハ痘瘡ニ於ケル寫牛圖ニシテ展覽ノ箇所ハ紅赤、燥裂等ノ舌面ヲ示ス。

九三 陳實功著 新刻外科正宗 卷之四

取鼻痔之秘法先用回香草散ヲ連吹二次。次用細銅筋二根、筋頭鑽一小孔。用絲線穿孔内。二筋相離五分許。以二筋頭直入鼻痔根上。將筋線絞緊向下一拔其痔自然拔落。置水中觀其大小。預用胎髮燒灰同象牙末等分吹鼻内。其血自止。戒口不發。

九四 喉科指掌 上下二冊アリ合 乾隆二十二丁丑春王二月（一七五七年）雲間世醫 張宗良 留仙氏著

淡紅喉痺腫ノ記載アリ圖譜ヲ示ス。

九五 喉科指掌 雲間 世醫 張宗良 留仙氏著 上下二冊アリ乾隆二十二丁丑春王二月（一七五七年）文政九年丙戌（二四八六）正月大阪京都ノ日本版ナリ

九六 保赤全書 全二冊

第六十六咽喉ニ關スル記載アリ。

九七 裕廷醫編輯、萬病回春、全八冊 卷之四

衄血治療法ヲ出ス

九八 梶原性全著 頗醫抄、抄錄

嘉元元年後二條天皇 錬倉北條貞時々代（一三〇三年）

本書ハ五十卷ヨリ成り、耳鼻咽喉ノ諸病ハ一部門ヲ分ツ。卷十九ニハ鼻、耳、第廿卷ニハ咽喉ノ諸病ヲ記載セリ。

九九 梶原性全著

覆載萬安方 第二十八卷

正和四年 花園天皇（一三一五年）

本書ハ六十二卷ヨリ成リ漢文ヲ用キタル醫書ニシテ唐宋ノ醫方ヲ折衷シ、單方ヲ抄錄シ、之ニ自家經驗ノ說ヲ加ヘタリ耳鼻咽喉ノ諸病ヲ特ニ部門ヲ分チテ記載セリ。

一〇〇 河口信任著

解屍編

京都、明和九年（一七七二年）

本書ハ屍體解剖ノ着色圖及ビ漢文ノ説明トヨリ成ル。

一〇一 片倉元周著、靜儉堂治驗、全三冊 文化十四年（一八一七年）（今ヨリ一一〇年前）、東都（江戸）ニテ出版
著者、寶曆元年—文政五年（一七五一一八二二年）相模國中郡西秦野（昔ノ大住郡堀村）ノ人、字ハ深甫、號ハ鶴陵
其家ヲ靜儉堂ト稱ス。取リテ本書ノ名題トセルモノナリ。専門ハ產科ナリシガ如キモ、傷寒雜病ノ治療ニ妙ヲ得タリ
著者ノ遺品ハ第二部第二ニアリ

本書ノ内容、自ラ親シク診タル所ノ患者ニ就キテ、原因症狀經過治療豫後等一切ヲ記載セル病床日誌體ノ書ニシテ、微
細ヲ盡セリ。

展覽ノ個所、圖ハ寛政六年六月十一日（西曆一七九四）、初メテ三味線ノ糸及筆管ヲ以テ製リタル一種ノ係蹄ヲ用キテ
鼻痔（鼻茸）ヲ取りタル手技及ビ其鼻茸ヲ示ス。

一〇二 越邑徳基譯、瘍科精選圖解、文政三年（西曆一八二〇年）（今ヨリ約一〇七年前）、京都（大阪・江戸・名古屋）ニ
テ出版

著者。伊勢ノ人、越士祥ト號ス。

本書ノ内容。原本ハ勞冷祖（Laurens Heister）（Lorenz Heister）、ノ著シタル蘭法外科書ノ譯書ニシテ、上下二冊アリ。
上巻ハ外科ニ關スル器械及ビ手法ノ圖解ヨリ成リ、圖ハ尾張ノ人墨仙牧信是ヲ寫ス。下巻ハ精密ナル圖譜説明ナリ。

展覽ノ個所。兎唇縫合ノ圖

一〇三 備後 小出龍君徳著 導穀私錄 卷之中

天保十年巳亥（一八三九年）

咽道（ショクドウ）ハ喉嚨（キドウ）ノ後ニシテ其上口ハ喉（キドウ）ト並ビアレドモ水穀ノ喉竅（キドウ）ニ漏レ入
ラザルハ喉上ニ會厭（エインヒブタ）アルユヘナラム。氣道食道ノ機巧ハ其妙ナルコト目之不可視。口之不可言
モノナリ。

一〇四 本間稟軒著

瘍科秘錄、天保八年（一八三七年）、水戸

本書ハ十卷ヨリ成リ、華岡流外科ノ秘奥及ビ自家二十年ノ經驗ヲ縷述ス。展覽ノ個所ハ兎缺（兎唇、俗ニ「イクチ」）
縫合並ビニ繡帶ノ圖ナリ。

一〇五 宇田川棟齋著 解體新書附圖 文政六年（一八二三年）

本書ハ有名ナル解體新書ノ附圖ニシテ、陸奥ノ人亞歐堂田善之ヲ鑄ル。之本邦内象銅版圖ノ嚆矢ナリ。

一〇六 小出龍君徳著 導穀私錄補之下 天保十年巳亥（一八三九年）

誤呑（銅錢及金鐵）者

誤テ銅錢ヲ呞吐トモ不出呑トモ不下咽中ニ在テ奈トモスルコト無モノ。烏芋（クロクハイ）二三顆シリヲロシ絞リ渣ヲ去リ汁ヲ飲
シム。銅錢化シ下ル云々

一〇七 小出君徳著、道穀私錄、天保七年刊（一八三六年）

小出君徳、名ハ龍、薇山ト號ス、備後ノ人、大阪ニ住ス。天保元年以來官ニ請ヒテ解體スルコト男女十餘屍、深ク臟象ノ理ヲ辯ジ遂ニ本書ヲ著ハス。我邦解剖學發達史上、趣味最モ多キモノナリ。

一〇八 中村惕齋 頭書增補訓蒙圖彙

本書ハ人事風俗其他一切ヲ圖示シ之ニ説明ヲ附シタルモノナリ。展覽ノ個所ハ兎唇（イクチ）ノ人ヲ示シ、頭註ニ「兎唇は缺唇とも兎缺ともいふ、兎缺は赤子のこき上手の外科に切てぬはすれば成人してみへぬものなり」トアリ。

一〇九 張登誕先彙纂 傷寒舌鑒

本書ハ舌ノ數十種ノ着色圖ナリ。

一〇〇 各骨眞形圖

本書ハ人體ノ各種ノ骨ノ構造ヲ圖示ス。

一一一 原南陽著 叢桂亭醫事小言 四下

鼻口喉ノ部ニ酒查鼻（俗ニ云フ柘榴鼻）ニ關スル記載アリ。

一一二 曲直瀨道三編 察證辨治啓迪集 卷五、鼻病門

ソノ前ニ耳病門アリ後ニ咽喉門ノ記載アリ。

一一三 丹波元胤著

体雅、疾雅、

文政四年（一八五七年）東都、

本書ハ耳鼻咽喉ノ諸病ニ關スル記載極メテ詳カナリ。

一一四 松村矩明等譯、虞列伊氏 解剖訓蒙圖 乾坤二帖 明治五壬申、醫學義含藏版
銅版圖譜ニシテ乾ニハ上顎其他ノ骨解剖ヲ、坤ニハ頸部ノ淋巴腺（水脈）ヲ示ス。

一一五 久保猪之吉著

日本ニ於ケル直達検査法趨勢、福岡、大正三年（一九一四年）

一一六 久保猪之吉著

氣道及食道ノ直達検査法趨勢、福岡、大正七年（一九一八年）

一一七 久保猪之吉著

「耳の垢取」の元祖王春庭三官一特に其墓地及子孫に關する研究、福岡、大正十五年（一九二六年）

一一八 醫方問餘

卷之二ニ失音、鼻塞、鼻流清涕、鼻生息肉云々ノ耳鼻科ニ關スル記載アリ。

一一九 岡田和一郎氏著

本邦ニ於ケル耳鼻咽喉科學發達史

（東京醫學會創立廿五年祝賀論文第三輯）東京、大正元年（一九一二年）

洋書追加

一八

八六ノ二 エンゲルベルト、ケムペル氏 Kaempfer, Eng.

日本帝國ノ自然、文物、宗教ノ歴史 二卷 アレー 一七一九年(佛語)

著者ハ獨逸ノ植物學者ニシテ遊歴家、一六五一年ニ生レ、一七一六年没ス。我國ニハ一六九〇年(元祿三年)渡米シ一六九二年(元祿五年)去ル。展覽ノ個所ハ日本ノ五十音字ナリ。

八六ノ三 エンゲルベルト、ケムペル氏 Kaempfer, Eng.

Amoenitatum Exoticarum Politico-physico-medicarum, Pasciculi, V, Lenoxvial, 一七一一年

本書ニハ日本植物ニ關スル學名、漢字、和名、圖譜等精シクアリ。

八六ノ四 ヴィツス、ヴィヂウス氏 Vidius, V.

希臘及ビ羅馬ノ外科(拉典) 一五六四年

美麗ナル木版圖多數ニアリ。

八六ノ二 ジュームス、イーアスレイ氏 Yearsley, J.

喉頭疾患特ニ扁桃腺肥大及懸雍垂下垂症、ロンドン、一八五九年

第一部 専門家ノ肖像類及ビ遺品

第一 畫真肖像類

一 グスターク、アレキサンダー Alexander, Gustav (1873—)

ウイーン大學教授

二 ローマルト、バラリー Barany, Robert (1876—)

ウブサラ大學、耳鼻科教授

三 フォン、ベルグマハ von Bergmann, Ernst (1836—1907)

ベルリンノ著名ナル外科家ニシテ口蓋手術其他整形的手術ヲ以テ知ラル。

四 ベツオルド Bezzold, Friedrich (1842—1908)

銅像

五 ヴィクトール、フォン、ブルンス von Bruns, Victor (1812—1883)

チューイーンゲン大學教授ニシテ連續音叉及ビ喉頭内手術ヲ始メタル人

六 シヤルク Charecot, Jean (1825—1893)

巴里ノ神經學者

七 アルフォンソ・コルチ Corti, Alfonso (1822—1876)

聽器ノコルチ氏器ヲ發見シタル人。

八 キエーリー 夫妻 M. et Mme Curie (M. Curie 1859—1906, Mme Curie 1867—)

一八九八年、「ラヂウム」ヲ發見シタ。

九 ツェルマック Czernyak, Joh. (1828—1873)

喉頭鏡ノ臨床的應用及後鼻鏡検査ノ創始者

一〇 フォン・アイケハ von Eicken, Carl (1874—)

ベルリン大學教授

一一 エッペ Abbé de l'Epée (1712—1789)

巴里ノ宗教家ニシテ聾啞教育ノ所謂「フランス」法 (一七七一年) ナ始メタル人。

一一 エウスタキ Eustachius, Bartolomeus (1510—1574)

所謂歐氏管ノ記載者ナリ

一一 ジーベムンド・エキスネル Exner, Sigism. (1846—1925)

ウイーン大學ノ生理學教授ナリキ。

一四 ファロツピウス Fallopio, Gabriele (1523—1562)

耳ノアロツピウス氏管ノ記載者ナリ。

一五 フルーハ Flourens, M. J. P. (1794—1867)

一八二四年、鳩ノ三半規管ニ就テ實驗的研究ヲ始メテ行ヒタリ。

一六 フランケル Fränkel, Bernhard (1836—1911)

ベルリン大學鼻喉科教授ナリシ人。

一七 エミール・フロエツシエルス Fréchels, Emil (1883—)

ウイーン大學教授 發音學ノ研究者。

一八 ガルトバ Galton, Francis (1822—)

ガルトン笛ノ發明者ナリ

一九甲 マヌエル・ガルシア García, Manuel (1805—1906)

一八五五年喉頭鏡検査法ヲ發見ス。マドリードニ生レ倫敦ニ死ス、(若キ時ノ像)

一九乙 同上、百歳ノ肖像、

一九〇 カルディ Golgi, Camillo (1844—1927)

神經細胞ノ染色法ヲ始メタル人、

一一 グラデニゴ Gradenigo, G. (1859—1926)

伊太利トリノ大學ヨリナボリ大學ニ轉ジタル伊太利隨一ノ専門家ナリキ。

一一一 グツツンハ Gutzmann, Hermann (1865—1922)

伯林大學ニ發音學ヲ始メテ設ケタル人

一一二 ガイ Guye, A. A. G. (1839—1905)

鼻性注意不能症ヲ記載シタル人

一一三 ハエック Hajek, M. (1861—)

ヴィーン耳鼻咽喉科第一講座ノ教授ニシテ副鼻腔ノ著書ニテ有名ナリ。

一一四 ジョームス・ヒントン Hinton, James (1822—1875)

英國ノ耳科學者。

一一五 ヒッポクラテス Hippocrates (460—377 B.C.)

ジャクソン Jackson, Chevalier (1865—)

米國フライラーテルフイヤ大學ノ教授

一一六 カーレル Kahler, Otto (1849—1893)

フライブルヒ大學教授ニシテキリアンノ後繼者。

一一七 片倉元周 Katakura, Genshu (1751—1822)

小田原ノ醫ニシテ鼻茸ノ手術法、扁桃腺周圍膿瘍ノ切開法ヲ記載セル人ナリ。

一一八 キリアン Killian, Gustav (1860—1921)

所謂直達検査法ヲ始メシテ多數ノ獨創的發明多ク近代ニ於ケル喉頭科學ノ第一人者ナリ

一一九 オットー・ケルネル Körner, Otto (1858—)

ロストック大學ノ教授、獨逸ニテ始メテ正教授トナリタル専門家ナリ。

一一一 クライドル Kreill, Alois (1864—)

ウイーン大學生理學教授ニシテ專門領域ニ於ケル生理學的研究多數ニアリ

一一二 クスマウル Kissmaul, Adolf (1822—1902)

一八六八年食道鏡検査ヲ始ム

一一三 キュンメル Kühnemel, Werner (1866—)

ハイデルベルヒ大學ノ耳喉科教授

一一四 キュステル Küster, Emil G. F. (1903—)

耳ノ根治手術ヲ始メタル人。

一一五 フォン・ランゲンビック von Langenbeck, Bernhard (1810—1887)

伯林ノ外科家ニシテ外科用器械或ハ整形手術ニ其名知ラル。

一一六 リュック Luc, Henry (1855—1926)

現今行ハルゝ上頸竇ノ根治手術ヲ始メタル人、(巴里ノ人)

一一七 マッエウェン Macawen, William (1848—)

耳性頭蓋内合併症ニ就テ研究セリ

119 曲直瀬道三 Manase, Doosan (1507—1594)

其著書ニ於テ耳科的記載アリ。

120 メリエール Ménière, Paul (1799—1862)

メリエール氏病ノ記載ヲナシタル人。

121 ウィルヘルム・マイエル Meyer, Wilhelm (1824—1895)

ローベンバーゲンノ醫ニシテ、『アデノイド、マゲタチオン』ノ發見及命名者ナリ

122 全上、銅像、コメンバーゲン市ニアニ。

123 フォン・ミクリッタ von Mikulicz, Joh. (1850—1905)

食道鏡検査法ノ發達ニ貢獻シタル外科教授ナリ。

124 モルガニー Morgagni, Giovanni, Battista (1733—1808)

伊ノノ所謂モルガニー氏竇ヲ記載シタル人ナリ。

125 パッソウ Passow, Adolf (1859—1926)

マルリン第一耳鼻咽喉科臨床ノ教授ナリ。

126 ポリツツエル Politzer, Adam (1835—1920)

ウイーン大學ノ教授リシヲ近世耳科學ノ鼻祖ナリ。

127 ブライヤー Preyer, Th. Wilhelm (1841—)

音響ニ對スル耳翼ノ反射運動ヲ注意シタリ

128 レンテゲン Röntgen, Wilh. Konr. (1845—1923)

所謂X光線ノ發見者ナリ (一八九六年)

129 リュウ Riume, Heinr. Ad. (1819—1868)

音叉試驗ノリュウ氏法ヲ始ム

130 シュエッフェル Schaeffer, Max (1846—1900)

前額竇ノ鼻内手術ニ於テ所謂シエツフュル氏點ヲ始ム、同氏ノ遺物アリ展覽會ニ陳列セリ。

131 シュニーグロー Schniegelow, Ernst (1856—)

ローベンバーゲンノ耳鼻科教授リシテ昨年退職シタリ。

132 シュニード Schmidt, Moritz (1858—1907)

フランクフルトノ専門家ニシテカイゼルヨリ「エキセレンツ」ノ稱號ヲ得タル人ナリ。

133 レオボルド、フォン、シュレッテル Leopold von Schröter, Leopold (1837—1908)

所謂シュレッテル氏喉頭カリューレヲ作リタル人ナリ。

134 シュワルツェ Schwartz, Hermann (1837—1910)

ハルレ大學ノ教授ニシテ乳嘴突起炎ノ所謂シュワルツェ氏手術ヲ始メタル人ニテ近代耳科的手術ノ祖ナリ、

五五 ゼヤハ Semon, Sir Felix (1849—1921)

獨ニ生レ英國ニ移住シタル専門家ニテ回歸神經癱瘓ニオケル所謂ゼモン氏法則ヲ發見セル人ナリ。

五六 高峰譲吉 Takamine, Jokichi (1852—1922)

『アムンナリハ』ノ發見者。

五七 ルイハシー Toynbee, Joseph (1815—1866)

ロンドンノ耳科専門家

五八 トレンテレンブルグ Trendelenburg, Friedr. (1844—1924)

所謂ト氏タンポンカリーノヲ始メタル外科醫ナリ。

五九 トロルチ Trötsch, A. Friedrich (1829—1890)

チューゼンゲン大學ノ耳科教授ニテ耳科學ノ泰斗ナリ。

六〇 ツュルク Türek, Ludwig (1810—1886)

喉頭鏡ヲ臨床的ニ應用シタル人ナリ

六一 ウルバンチツチ Urbantschitsch, Victor (1847—)

ウイーン大學ノ教授ナリ人

六二 ヴルザルヴ Valsalva, Antonio Maria (1666—1723)

ヴルザルヴ氏法ヲ發明シタル人ナリ。

六三 ワルダイエル Walkley H. W, Gottfr. (1836—1921)

ベルリン大學解剖學教授ニシテワルダイエル氏扁桃腺輪ヲ研究シタル人ナリ。

六四 ワッセルマン von Wassermann, August (1866—1926?)

所謂ワッセルマン反應ヲ始メタル人ナリ。

六五 ウェーベル Weber, Ernst Heinrich (1795—1876)

音叉ノウェーベル氏法ヲ始メタル人ナリ。

六六 ワイルド Wilde, Robert Willis (1815—1876)

英國タブリンノ専門醫ニシテ所謂ワイルド氏ノ耳後切開ヲ始メタル人ナリ。

六六ノ二 トーマス・ウイリス Willis, Thomas (1622—1675)

所謂ウイリスノ聽錯ヲ發明シタル人

六七 イーヤースレー Yearsley, James (1805—1869)

英國ノ耳科醫

六八 ツアルニコ Zarniko, Karl (1863—)

ハンブルグノ開業醫ニシテ鼻科ニ詳シキ人ナリ。

六九 ツワルデマーケル Zwaardenmaker, H. (1857—)

和蘭ウトロヒト大學、生理學教授ニシテ嗅覺及發音ノ生理ニツイテ著書多シ。

六九ノ二 岡田和一郎先生 Okada, Waichiro (1864-)

東京帝國大學名譽教授

六九ノ三 第拾七回萬國醫學會耳鼻咽喉科會員寫真、ロンドン 一九一三年八月

七〇 キリアン先生胸像、ベルリン美術學校教授レードレル氏作、

本像ハキリアン先生滿六十歲ノ賀ニベルリン大學耳鼻科教室備付ノタメレ氏ノ作リタル一倍半大ノ頭像ノ複製ニシテ大正拾貳年ニベルリンヨリ到着シタルモノナリ。

七一 シュミーゲロウ氏七十歲ノ賀ノ『メダル』

表面ニハ同氏ノ側面像ヲ、裏面ニハ中央ニ炬火ヲ畫キ一九二六年ト記シ、周圍ニハ拉典語ニテ同僚門弟友人ノ友情トイフ意味ヲ示シタリ

七二 初代豊國畫、太田錦城題 片倉元周先生肖像彩色圖、(小村雪岱摸寫)

原圖ハ片倉氏末裔東京岡村悅子氏方ニアリシガ、大正十二年ノ震災當時火災ニ遭ヒ焼失シ、今コノ模寫ノミ存ス

第二 遺品

七三 ゼモン先生遺品

一、先生常用ノ銀ノ臺ツキコツブ

二、銀製容器

三、ネクタイピン

右ハ先生病篤キ時自署ノ遺言ヲ添ヘ予ニ定メラレタルモノヲ先生歿後ニ未亡人ヨリ予ニ送ラレタリ(久保記)
キリアン先生ヨリ賜ハリタル「インキ」壺

コノ品ハ予ノ一九〇三年フライブルグ市キリアン先生ノ許ニ助手トシテ勵キ、一九〇六年同所ヲ辭スル時予ノ在職ヲ記念スル爲特ニソノ由ヲ左ノ文字ニテ壺ノ蓋ニ刻ミ同先生ヨリ賜ハリタルモノナリ。(久保記)

“Zur Erinnerung an Freiburg im Breisgau und die Killian'sche Klinik 1903 4 u. 5.”

七五 片倉元周先生遺品ノ一

コノ標本ハ久保教授ガ彼ノ六代ノ裔、岡村悅子氏ヨリ贈ラレタルモノニシテ、又貴重珍稀ナル遺品ナリ。其中三菱針ハ咽後膿瘍及扁桃腺周圍膿瘍ヲ切開スル爲ニ用ヰラレシモノ。

曲頭管ハ小兒又ハ大人ニシテ「トリスマス」アルモノニ藥液又ハ食物ヲ送ルニ用ヰラレタルモノナリ。

七六 片倉元周先生遺品ノ二

片倉先生藏書ノ印。其他ノ印ヲ始メトシテ藥ノ廣告ニ用ヰタル版木ヲ收ム。

七七 シエツフエル教授遺品

シエツフエル氏ハブレーメン市ノ専門家ニシテ、前額竇ヲ鼻腔内ヨリ手術スルニ所謂シエツフエル氏點ヨリ進ム事ヲ始メタル人ナリ。其令息又専門家ニシテ、余ノキリアン先生ノ許ニ留學中同窓ナリシ事アリ。嚴君ノ遺品ヲ余ニ

寄贈セラレタリ。鼻鏡、喉頭鏡、後鼻鏡其他鼻科的手術器械ノ如キ現代ノモノト大ニ趣ヲ異ニスルヲ見ル。(久保記)

七八 蔡鍔將軍遺品ノ一

四川將軍蔡鍔氏大正五年遙々來朝耳鼻科ニ入院治療セシガ、遂ニ逝ク。遺族ヨリ教室ニ寄贈セラレタル遺品之ナリ。鉛筆書キノ手帖ハ會話ヲ禁ゼラレシタメ毎日献立其他ヲ命令サレシ控帳。吹粉器ノ種々ナル形ノモノハ本國ヨリ携帶セラレシモノナリ。

七九 蔡鍔將軍死面型

死後遺族ノ希望ニヨリ死面型二個ヲ製作シ、一個ハ本國ニ持歸リ、一個ヲ教室ニ寄附セラレタリ。容器ノ裏面ニ蔡公遺像ト記シタルハ參謀蔣方震氏ノ筆ナリ。

第三部 標 本 類

第一 主トシテ教室ニ於ケル實驗治療ニ力、ルモノ、中基礎的ニシテ興味アルモノ

一 耳内異物トシテノ蛔虫ノ標本 一例

外聽道ノ異物ハ甚ダ多シ。小兒ニテハ玩具類又ハ豆類ヲ挿入スルコトアリ、大人ニテモ「耳搔」ノ先端ガ折レ残リ、或ハ「のみ」「こがねむし」等ノ昆虫ガ偶然外聽道内ニ侵入スルコトアリ。サレド咽喉ヨリ歐氏管ヲ經テ鼓室又ハ外聽道ニ達スルモノハ極メテ稀ナリ。

コ、ニ展覽スルハ三歳ノ男兒ノ睡眠中蛔虫ガ消化管ヲ逆行シテ咽頭ニ達シ左側歐氏管ヲ經テ鼓室ニ至リ更ニ既存ノ鼓膜穿孔ヲ通シテ外聽道ニ出デタルモノナリ。(高崎記)

二 巨大ナル耳翼「アテローム」(粉瘤腫) 二例

耳翼ニハ脂肪腫ノ外、「アテローム」ヲ生ズルコト多シ。コ、ニ供覽スルハ五十六歳ノ男子及廿八歳ノ男子ニ生ゼル巨大ナル「アテローム」ヲ完全ニ抽出シタル例ナリ。

三 耳眞珠腫（假性） 二例

慢性中耳炎ノ結果トシテ外聴道ノ上皮細胞ガ蓄積増大シテ周囲ノ骨質ヲ蠶食シ終ニ危險ナル頭蓋内合併症ヲ續發スルコトアリ。腫瘍塊ハ甚シキ惡臭アリ。

標本ハ十五歳ノ男兒及ビ十二歳ノ男兒ヨリ耳ノ手術ニヨリテ得タルモノニシテ共ニ巨大ナルモノナリ。（高崎記）

四 耳性顎頸脳葉膿瘍ノ標本 一例

急性又ハ慢性中耳炎ノ膿汁ガ頭蓋腔内ニ破レテ重篤ナル脳膜炎又ハ脳膿瘍ヲ生ジ死ニ致スコト稀ナラズ。此標本ハ廿二歳ノ男ニテ右側慢性中耳炎ヨリ脳膜炎ヲ起シ更ニ右側顎頸葉内ニ膿汁ガ滲漏シテ膿瘍トナリタルモノニテ、標本ノ向テ右側ニアル大腔洞、即チコレナリ。（高崎記）

五 鼻内逆生歯牙 一例

鼻腔前庭又ハ固有鼻腔ノ入口ニ上顎歯牙ガ逆生スルコトアリ。此逆生歯ハ過剰歯ナルコト、然ラザルコト、アリ後ノ場合ハ上歯列ノ歯數不足ス。

此標本ハ十四歳ノ男兒ノ左鼻腔内ニ逆生セルモノナリ。（高崎）

六 鼻中隔癌腫標本 一例

鼻中隔ヨリ出血性鼻茸ヲ生ズルコトハ多シ、サレド癌腫ハ稀ナリ、此標本ハ四十八歳ノ男子ノ鼻中隔右側面ヨリ生ジタル有莖性癌腫ナリ。（高崎）

七 久保式バリウム注入法ニヨリテ得タル上顎竇ノX光線寫真

八 上顎歯牙囊腫標本 十例

方法ハ東京醫事新誌第二五〇九號、昭和二年二月號ニ記載ス。獨リ上顎竇ノ大小、形狀、二分等ニツキテ精細ニ知リ得ルノミナラズ、粘膜ノ厚薄、腫瘍ノ存否及形狀、發生部位等ヲ明瞭ニ示ス、若、規則的ニ老年期ノ人ヲ此方法ニヨリテ検査スル時ハ上顎竇内ノ初發癌腫ノ發生ヲモ發見シウベシ。

九 上顎歯牙囊腫標本

十例

上顎歯牙ノ胚芽ヨリ滲漏囊腫ヲ生ジ、甚シキハ骨壁ヲ崩壊シテ上顎竇内又ハ口腔内ニ増大スルコトアリ、囊腫壁ニ歯牙ヲ有スルヲ特有トス

コ、ニ供覧スルハ

六歳ノ男兒（標本瓶二ヶ）

廿一歳ノ男（不明）

卅一歳ノ男（右側）

廿一歳ノ男（左側）

廿六歳ノ男（左側）

卅歲ノ男（右側）

廿六歳ノ男（右側）

廿九歳ノ女（標本瓶二ヶ）

十四歳ノ男（左側）

四十四歳ノ男（不明）

九 上顎竇性鼻「ボリープ」ノ標本 五十八例

通常鼻茸（鼻ボリープ）ト稱スルモノハ鼻腔粘膜ヨリ出デ、鼻腔内ニ止マルモノナリ。コ、ニ上顎竇性ト特ニ命名スルモノハ上顎竇内ノ粘膜ヨリ生ジタルモノ、謂ニシテ鼻茸ハ始メ竇内（上顎竇ボリープ）ニアレドモ發育ト共ニ鼻腔内（上顎竇性鼻腔ボリープ）次テ後鼻孔（同後鼻孔ボリープ）咽頭更ニ口腔ニ出ヅルニ至ル。從來カ、ル鼻茸ノ存

在シ得ベキハ理論上、認メラレタル處ナルガ、コレヲ手術ニテ確メラレタルハ我ガ久保(猪)博士ニシテ實ニ一九〇七年ノコトナリ。即チコ、ニ赤紙ヲ以テ示シタルモノナリ。患者ハ廿一歳ノ婦人ナリキ。此標本ハ獨乙ノ各專門書ニ世界最初ノ例トシテ特記スル所ナリ。爾來、今日迄、世界各國ニ於テ此疾患ノ報告セラレタル數ハ殆ンド枚舉ニ遑アラズ。

コ、ニ展覽スルハ發見以來ノ當教室ニ於ケル標本ナリ。(高崎記)

上顎竇「ボリープ」 四例

上顎竇性鼻腔「ボリープ」

二例

同 後鼻孔「ボリープ」

四九例

同 咽頭「ボリープ」

二例

同 口腔「ボリープ」

一例

一〇 上顎竇性鼻腔「ボリープ」ノ上顎竇内ヨリ出發スル關係ヲ示ス標本

上顎竇性後鼻孔「ボリープ」ハキリアン氏初メテ消息子探査ニヨリテ「ボリープ」ノ竇内ヨリ出ルヲ稱シ、次デ久保教授(一九〇七年)手術的ニ竇内ヲ開キテ之ヲ確定セラレタルモノナリ。

コノ標本モ上顎竇粘膜ヨリ發シタル「ボリープ」ガ副開孔ヲ通ツテ漸ク鼻腔内ニ延ビタルモノナリ。副開孔ハ擴大セラレ、「ボリープ」ハ根大ニシテ容易ニ竇内ヨリ出デタルヲ知ル可シ。(貞田記)

一一 蝶蝶竇性「ボリープ」 四例

副鼻腔ヨリ出ヅル鼻茸中、上顎竇ヨリスルモノ最モ多數ナレド稀ニハ他ノ竇例ヘバ蝶蝶竇ヨリ出ヅルコトアリ。久保博士明治四十年ニ之ヲ發見シ新ニ命名シタル所ナリ。

コ、ニ展覽スルハ卅四歳ノ男子ノ左側蝶蝶竇性後鼻孔「ボリープ」、廿三歳ノ男子ノ左側蝶蝶竇性咽腔「ボリープ」、廿八歳ノ男子ノ左側蝶蝶竇内「ボリープ」及ビ廿六歳ノ男子ノ左側蝶蝶竇性咽腔「ボリープ」ナリ。(高崎記)

一二 新稱上顎性粘液腺囊腫ノ標本 例

從來、鼻唇溝ノ消失トゲルベル氏隆起ヲ來ス囊腫ハ上顎骨ノ特ニ歯牙ニ因スル囊腫ト考ヘラレタルガ久保博士ハ、カ、ル症狀ヲ現ハスモノ、中ニ骨トハ無關係ニ粘液腺ノ溢溜腫脹トシテ發生スルモノアルコトヲ發見シ、コレヲ新稱上顎性粘液腺囊腫ト命名、大正九年記載セラレタリ。此腫瘍ハ良性ニシテ口腔ヨリ容易ニ抽出、全治セシメ得。

(高崎記)

一三 唾石標本 三例

舌下腺又ハ耳下腺内ニ結石ヲ生ズルコトアリ、コレヲ唾石ト云フ。核心ハ多クハ異物又ハ上皮塊ニシテ、コレニ石灰塙類ガ沈著シテ生ズ。

標本(一)ハ四十二歳ノ男子ノ左側顎下腺ニシテ唾石ノ刺戟ニヨリテ著シク腫脹セルヲ見ル。

(二)ハ二十歳ノ男子ヨリ抽出セルモノ(腺ノ名ハ不明)

(三)ハ廿七歳ノ男ヨリ取出シタル棒狀ノ唾石ナリ。(腺ノ名ハ不明)(高崎記)

一四 口蓋肉腫標本 二例

五十二歳ノ男子ノ右側口蓋ニ生ゼル肉腫標本及ビ一男子（年齢不明）ノ黒色肉腫標本ナリ

一五 口蓋腫瘍ノ標本 一例

一六 鼻咽喉纖維腫標本 三例

鼻咽喉纖維腫ハ春季發動期頃ノ男子ニ好發シ、鼻出血ト鼾聲トヲ特有トス。元來良性ナレドモ腫瘍ノ壓迫ニヨリ周囲ノ諸組織ヲ壞滅セシムル點ニ於テ悪性ナリ。

展覽ノ標本三例ハ、何レモ男子ニシテ年齢ハ十九歳、十六歳及十三歳ナリ。何レモ外切開ヲ施ス事ナク、鼻腔ヨリ熱蹄係ニテ摘出シタルモノナリ。（高崎記）

一七 會厭囊腫標本 二例

會厭軟骨ノ粘膜ヨリ囊腫ヲ生ズルコトアリ。増大スレバ嚥下障碍ヲ來ス。

コ、ニ展覽スルハ六十四歳ノ男子及ビ五十二歳ノ男子ニ發生セルモノナリ、摘出ハ懸垂喉頭鏡下ニテ大正十五年七月發表シタル久保博士ノ方法ニテ行ヒタルモノナリ。（高崎記）

一八 耳性失語症患者大脳

二十八歳女 商業 一九二七、二、一八死亡

右側乳嘴突起炎ニテ當科入院加療中、失語症ヲ合併シ遂ニ死亡セシモノナリ。

脳ハ右側ヨリ横竇ヲ通ツテ左側ニ至リ、硬脳膜ト軟脳膜トノ間ニ瀦溜シテ左側脳半球ヲ蔽ヒテ之ヲ壓シ、脳ノ深サ

一九 音節不全性吃者大脳

三十四歳男 博多人形上繪師 一九二七、一、四、死亡

實ニ約一糰ニモ及ビ、僅カニ第二、第三顎頸廻轉ヲ殘スノミ。

脳塊多ク剝離シタルモ尙諸所ニ附着シ、左側半球ハ脳ノ爲ニ壓セラレテ凹狀ヲナセルヲ見ル可シ。

即チ瀦溜脳壓迫ニ因ル失語症ニシテ、臨床的ニハ感覺性失語症ニ運動性ノモノヲ合併シタルモノナリ。

一〇 原發性氣管内上皮癌

音節不全性吃音ハ一九〇二年アバディー（Abadie）初メテ其大脳所見ヲ記載ス。コノ大脳ハ世界文献上實ニ第二例ニシテ、右側ベツオルド氏乳嘴突起炎ニテ當科入院加療中不幸死ノ轉歸ヲ採リタルモノナリ。發音器ニ至ル脳皮質ニ明カナル萎縮ヲ認ム。特ニ左側ニ於テ甚ダシク恰モ餌食セラレタルガ如シ。即チ大脳皮質性音節不全性吃音ナリ。

一一 氣管枝淋巴腺炎ノ標本

四十四歳ノ農夫、高度ノ呼吸困難ヲ以テ來ル、喉頭ニ異常ナシ、上氣管鏡検査法ニヨリ氣管分枝部ニ近キ所ニ癌腫ヲ發見ス、食道鏡ニテハ食道壁ノ前方ヨリ丸ク隆起シテ狹窄スルヲ見ルノミ。

死後解剖ニヨリテ氣管内ノ原發性癌腫ナルコトヲ確メタリ。

一二 氣管枝淋巴腺炎ノ標本

氣管枝周圍ノ淋巴腺炎ニヨリ氣管又ハ氣管枝ヲ刺戟、壓迫シテ呼吸困難其他ノ刺戟症狀ヲ起スコト妙カラズ、此標本ハ四歳ノ女兒ニ小兒喘息ヲ起セル例ニシテ多數ノ氣管枝淋巴腺ガ著シク腫大セルヲ見ル。

一三 食道「ボリープ」標本

食道ニハ癌腫ノ如キ悪性腫瘍ヲ生ズルコト多ケレド、「ボリープ」(纖維腫)ノ如キ良性腫瘍ハ極メテ稀ナリ。

此腫瘍ハ多クハ食道上部ニ生ジ、細長、有莖性ニシテ食道内ニ納メラル、ヲ常トスレド 嘔吐又ハ絞扼運動ニヨリテ咽頭ヲ經テ口腔内ニ現ハレ來ルコトアリ。

此標本ハ四十三歳ノ婦人ノ食道口部ニ生ゼルモノヲ懸垂喉頭鏡下ニ絞断抽出セルモノナリ。

二三 食道及氣道異物ニ就テ

一八六八年クスマウルハ食道直達検査法ヲ發見シ一八九七年キリアン先生ハ(當時フライブルヒ大學教授)一患者ノ右氣管支内ニ金屬直管ヲ挿入シ、右氣管支ヨリ魚骨片ヲ抽出シ、其翌年氣管枝直達鏡検査法ト命名シテ發表セリ。

コ、ニ深部氣道検査法完成セラル。コレヲ喉頭科學ノ第二革命トナス。我邦ニテ直達検査法ガ普及セルハ明治四十年(一九〇七年)久保(猪)博士ガ歐洲ヨリ歸朝シ當教室ヲ開キタル以後ニ屬ス。當時専門家ノ中ニモコレヲ危險ナリトシテ反對スル者尠カラザリシガ、今日ニ於テハ苟クモ専門家トシテ此技術ヲ習得セザル者ナキニ至レリ。

コ、ニ供覽スル食道及氣道異物ノ標本ハ明治四十年以來、當教室ニテ抽出セラレタルモノニシテ、其總數實ニ五百七十有餘例ニ及ブ。

氣管及氣管枝異物ハ一般ニ小兒ニ多シ。氣管枝ハ右側ニ多シ、種類ハ豆、種子最多ク、貝殻、針、釘、鉄等アリ。コ、ニ赤框ヲ以テ示シタル標本ハ、明治四十年(一九〇七年)久保博士ガ四歳ノ小兒ノ左氣管枝ヨリ抽出セラレタル太鉄鉗ニシテ、上氣管支鏡的異物抽出ノ我邦最初ノ例ナリ。

食道異物ハ小兒ニ最多ク、其種類ハ貨幣、特ニ一錢銅貨最多ク、玩具、食物片等之ニ亞グ。大人ニテハ老年ニ多シ咀嚼ノ不充分ナルト、口内ノ感覺鈍ナルニヨル。種類ハ義齒、肉片等ヲ主トス。コ、ニ供覽スル長キ煙管ハ一精神病者ガ自殺ノ目的ヲ以テ喫下セルモノニシテ、吸口ハ食道ニ、其首ハ胃内ニアリタリ。食道鏡ニテ容易ニ抽出セラレタリ。

日本ニ固有ナルハ碁石ノ異物ナリ。碁石抽出ニハ久保博士考案ノ碁石鉗子(第四部第一ノ七参照)以外ノ鉗子ニテハ極メテ困難ナリ(高崎記)

第二 教室以外ノ標本類

三四 聽器ノ透明標本 ツアイス製

此標本ハ腐蝕解剖ノ方法ニヨリウッド氏合金ヲ骨腔ニ注入シ脱灰スル事ナク直チニ「ウキンテルグリューン」油ノ透明液ニ投入シ、骨腔及び脈管等ノ關係ヲ立體的ニ識別シ得ル標本ニシテスバルテホルツノ考案ナリ。

二五 前額竇ニ消息子ヲ入レテ矢狀方向ニ寫シタル最初ノX光線寫真

フライブルヒ大學ゴーレドマン教授ノ下ニアルX光線室ニテ技手看護婦マリー嬢ガ寫シタルX光線寫真ニシテ、キリアン、コールドマンニ氏ノ原著ノ插圖ニ用キラレタル原板ヲ予ガ記念トシテ貰ヒ受ケタルモノナリ(久保記)

九州帝國大學醫學部病理學教室出品

- 二六 鼻咽腔及ビ蝴蝶竇内續發性肉腫 五二歳 男 大正五、一一、一八
- 二七 篩骨蜂巢内ニ迷入セル蛔蟲 一一歳 男 大正七、一〇、一二
- 二八 硫酸ニヨル腐蝕性食道炎 二三歳 女 大正四、九、二
- 二九 壞酸腐蝕ニヨル食道ノ瘢痕性狹窄 二一歳 女 大正九、八、三〇
- 三〇 食道憩室ノ人工的穿孔、瘢痕性食道狹窄 三〇歳 男 大正一、二、五
- 三一 食道靜脈ノ擴張及ビ破裂 三〇歳 女 大正三、三、一五
- 三二 食道異物（昆布） 二歳 男 大正七、八、一七
- 三三 氣管ノ粘膜下組織ヨリ發生セル纖維腫 四八歳 女 大正三、九、一八
- 三四 氣管枝ノ原發性癌腫 四八歳 男 大正一、七、三
- 三五 氣管ニ穿孔セル大動脈瘤 四六歳 男 大正九、六、二

第四部 器 械 類

第一 主トシテ教室ニテ考案シタルモノ

一 義齒破截鉗子（久保型）

二 深部縫合針第一型 大小（久保型）

此改良深部縫合針ハ一九〇八年四月九州沖縄醫學會ニ於テ始メテ公表セラレ、次デ大正二年（一九一四年八月）ロン
ドニ於ケル萬國醫學會ニテモ供覽セラレ、爾來諸外國器械目錄中ニモ採録セラレ、或ハ他専門領域ニ於テモ應用セラ
レテ好評ヲ得シモノナリ。

針部ノ針孔ト相對スル部ニ斜走スル鉤狀ノ突起ヲ設ケ、往キニハ其上ヲ走リ、歸リニハ其下ヲ走リ、ソノ小鉤ハ縫合
糸ガ如何ナル位置ニアリテモ常ニ之ヲ良ク捕ヘ來ル。其巧妙ナル觀ル可シ。（貝田記）

三 深部縫合針 第二型（鬼塚型）

四 自掣開口器（久保型）

從來開口器トシテ工夫セラレタルモノ頗ル多シト雖モ各一長一短、未ダ理想的ノモノナシ。コ、ニ於テ久保教授ハ新
固定開口器ヲ案出セラレタリ。

久保式開口器ノ特色トスル所ハ固定點ヲ下顎骨ニ求メ開口器ノ兩瓣ヲ離開スルヤ在來ノモノ、如ク單ニ上下齒列ノ齒冠部ヲ押シ開クニ非ズシテ下顎骨全部ヲ一瓣ニ變ジタル點ナリ。（貝田記）

五 分解性鼻鏡（久保型）

六 自製軟口蓋釣（同）

七 墓石鉗子（同）

食道異物中、墓石等ノ如ク圓滑ナルモノハ直達検査ニヨリテ之ヲ目前ニ觀ナガラ捕捉スル能ハズ手ヲ空ウシテ隔靴搔痒ニ惱ムハ専門諸家ノ經驗スル所ナリ。而モ從來カ、ル場合満足ス可キ異物鉗子ナシ。コ、ニ於テ久保教授ハ一つノ新ラシキ鉗子ヲ工夫シ多數ノ患者ニ適用セラル。コノ標本ハ即其墓石鉗子ニシテ明治四十五年四月大日本耳鼻咽喉科總會（東京）ニ於テ供覽セラレタルモノナリ。

鉗子ハ短瓣ト長瓣ヨリナリ、短瓣ハ墓石ヲ手前ヨリ壓迫固定シ、長瓣ハ異物ノ下面ヨリ先端ニ廻リテ之ヲ攔ミ以テ墓石ヲ三點ニテ完全ニ固定捕捉シ得ルモノナリ。（貝田記）

八 久保型ゴニオメーテル（工學部岩岡教授ノ協力ヲ得テ成レル型ナリ）

九 分解性直達用鉗子（同）

一〇 鼻中隔測定器（同）

一一 ラリンクメートル（同）

一二 金属製アルコールランプ（同）

一三 鼻中隔刀（同）

一四 上顎竇用ゾンデンカニユーレ（同）

一五 蝶蝶竇手術用鋸（同）

一六 上顎竇手術用粘膜鉗子（同）

一七 前庭器検査用廻轉椅子（同）（工學部岩岡教授ノ協力ニヨリテ成レルモノナリ）

一八 直達用咯痰保護器（同）

一九 氣管支及氣管狹窄擴張金屬ブジー（同）

二〇 咽頭瘻著剥離子（同）

二一 上顎竇バリウム注射器（同）

二二 扁桃腺全抽出用鉗子（同）

二三 久保型扁桃腺剥離刀

二四 オトゴニオメーテル（久保型）

二五 微細噴霧器一、喉頭用二、氣管用（同）

二六 上顎竇球頭消息子（同）

二七 ニスタグモグラフ（同）

二八 壞ツマミ（同）

一九 久保型上顎竇中鼻道切開用鉗子

二〇 上顎竇中鼻道切開用鉗子 (同)

二一 上咽腔直達検査鏡 (同)

二二 扁平異物用食道鏡 (香宗我部型)

二三 直達用異物鉗子 (椎木型)

二四 改良グロースマン型動物用開口器 (高崎型)

主トシテ犬及ビ猫ニ用キルグロースマン型開口器ニ人類ニ用キルルフリンスキイ氏會厭軟骨挙器ヲ裝置シテ喉頭内ヲ自由ニ觀察シ得ル様ニ工夫セリ。(高崎記)

第二 外國製品ノ革新ナルモノ

二五 バラニー氏反側性眼球回轉計 (最新型)

頭部ノ傾斜ト共ニ眼球ガ同角度ノ傾斜ヲナサダルコトハ夙ニ知ラレタル事實ニシテ之ヲ反側性眼球廻轉ト稱ス此ノ器械ハ反側性眼球廻轉ヲ精査スル裝置ニシテバラニーノ考案セルモノナリ (立木記)

二六 「オーデオメーター」 (新聽力計)

一定セル高サノ音ニ於テソノ強サヲ任意變化セシメ、聽取ノ限界ヲ測定セントスル器械ニシテ被驗者ハ聽官ノ合圖トシテ電燈ヲ點ズル裝置ヲ有スルモノナリ。「ウエスター・エレクトリックカムバニー」ノ製作ニカヽル。(立木記)

二七 ガーレル氏新型實體鏡的喉頭寫真機

「ファインダー」ヨリノゾキ、本機ノ喉頭鏡ヲ用キテ、喉頭像ノ鏡ニ正確ニ映ジタル瞬間ニ「ペダル」ヲ踏ミ (光ヲ強クシ) 撮影スレバ、同時ニ二枚ノ實體鏡的寫真ヲ得。(末松記)

二八 エーデルマン氏アルミニウム音叉

エーデルマン氏ノ考案セルモノニシテソノ重量ノ輕キコト、音叉ノ中軸ヲ起ル真鍮管及ビ之ニ連絡セルゴム管ヲ以テ音叉ノ一定振動ヲ直接被驗者ノ耳腔ニ一樣ニ傳達スルコトノ二點ヲ以テ特徴トス、而シテ此音叉ハ千九百六年、久保教授ミニンヘン訪問ニ際シソノ記念トシテエーデルマン教授が贈リタルモノニシテ側面ニソノ旨ヲ刻ミアリ。(立木記)

第五部 雜

五六

一 仙崖筆 耳鳴 曾田共助氏所藏
行徳猶耳之鳴獨自知不令人知

二 親鸞上人八十三歳ノ筆

聖徳太子ノ御名オハ八耳皇子トマフサシム、八人シテ一トニ奏スルコトヲ（マフストイフコトハナリ）一度ニキコシ
メスユヘニ八耳皇子トマフスナリ

三 田口鼎軒（卯吉）氏和歌一首

鼻の骨をけずりそぎて喘息の治療をうけしかば

梅が枝の數にや入らむ我もまた

はなさく春を迎へてしかば

（明治三十五六年頃ノ作）

四 長塚節氏看護婦を詠せる歌一首

たまくは紺のひごへ帶しめて

をこめなりけるつゝましさあはれ 節

（大正三年七八兩月耳鼻科入院中ノ作）

醫學士久保猪之吉留學の途にのぼるを送る歌及び詩

五 尾上柴舟氏

さけはびーる、木はりんてんのひごの國
くすしは君ごいはれて來ませ

六 佐々木信綱氏

いかづちのござろくなさむ道の上の

いさをしたてゝ歸りませわがせ

さらば君まさきゆかせさらば君

こしの三年をこゝに別れむ

七 金子薰園氏

あさ雲にいのるわがうたひごきたかし

君をほまれの旅にやるあした

八 坂井久良岐氏

珍らしき耳ご鼻ごの外に又

こゝろ咽喉むるごつくにの詩

（明治三十六年六月）

九 杉浦重剛先生詩
送久保醫學士留學于獨逸國

星槎航萬里雄志有誰疑仁術已傳秘

文章亦吐奇百聞加一見三折又千之

造詣可知耳何要說別離

癸卯梅天

杉浦重剛拜具

一〇 金井之恭先生詩

螢雪多年宿志酬乘槎

命向歐洲此行不是尋常事

學到扁倉可始休

明治三十六年六月送

久保醫學士留學于獨逸國

金洞仙史之恭草

安部井磐根翁和歌

一一 久保君の留學の四三せ五三せはて歐洲より歸朝したまひける時
誰しかもあはこ仰がぬ手もすまに

一二 待ちわびぬ人やはありしあまた年

きみの磨きし玉の光を
きみが磨きし玉の光を
磐根

(明治四十年一月)

一三 ゼモン氏筆 アルス、ロンガ、ヴィタ、ブレヴィス、 一九二〇年

右ハゼモン氏ガ毛筆ヲ以テロンドンニテ記シ福岡ノ久保ニ送ラレタルモノナリ。

「藝ハ永ク命ハ短シ」トイフ譯語ハ既ニ蜀山人ガ長崎ニ於テ作リタル所ニシテ詳シキコトハ一話一言ニ見ユ

一四 貝原益軒筆 竹田助太夫宛

竹田氏令息ノ瘧ニ就キテノ養生法ヲ認メタルモノナリ

九州帝大圖書館所藏

少年易老學難成一寸光陰不可輕未覺池塘芳草夢階前梧葉已秋聲

寛政十二年九月廿六日筆片倉先生五十歲ノ筆

一六 尾崎紅葉氏ノ病中、久保醫學士ノ留學ヲ送リタル書簡。

本書簡ハ尾崎紅葉氏ガ不治ノ難症ニカ、リ靜養中明治三十六年六月十九日付予ノ留學ヲ祝シ來リタルモノナリ。其ノ全文如次。

然者先般は御はがき被下海外御留學この御事學者の本懷何事か之に過ぎ可申御好運の義欽羨に不堪候別而此の難症

に呻吟候身には胸臆の中謂ふべからざる者有之候事は諱久しきに有之候事を曉り候小生には御身の御自愛をのみ
祈望してやまず候過度の勉強なご尤もよろしからず坦途を徐歩する如き御體度にて優々御研學の義願上候
昨日は又御繁劇中わざ／＼御貴臨被下候處いつもは閉居罷在候に昨に限り久しぶりにて外出候處へ御出は遺憾の極
みに御座候病中の事故御暇乞ひにも不得參候小生幸ひに命も有之候はゞ新橋停車場迄御歡迎にも可罷出候へゞも從
是別萬古茫々なるやも難測佐渡には一足先に旅行いたし候某なれど此度は學兄の爲に壯遊を先んぜられ候事かへ
すべくも殘念千萬に御座候

航行中御筆ついてには時々御消息御聞せ被下度又彼地に御着の上は繪はがきゞも賜はり度枕上の樂みに相待申居候
成功は命長きに在る事を忘れたまふべからず養生の法は申す迄も無くあせらざるに有之適宜の御勉強こそ望ましく
存候
(久保曰く ○點は原文の儘)

別紙は病中記念として作り候ふ繪はがきに有之本月末ならでは出来不申幸ひ只今製版見本として一葉參り候ふ間座
右に獻じ申候御笑留被下候はゞ幸甚に御座候かゝる時こそげにゞゝ命をしく候御歸朝後の久保君が見たく萬感錚り
て難禁候

六月十九日

久保雅兄 座下

尾崎徳